



# 助動詞を見つめてわかる 「仮定法」

～隠れた「もし」の意味を感じることから仮定法を理解する～

仮定法は、高校生が最もつまずきやすい文法項目の一つです。

Whenを用いた文が理解できていれば、文構造自体は同じなので、それほど難しくはないはずですが、実際に指導してみると、仮定法でつまずく生徒が多いのが現実です。

この原因を探った結果、**仮定法が難しいと生徒が感じるのは、if節ではなく、主節の助動詞の使い方にある**ことがわかりました。

まず、どの助動詞を使うべきか、また、どうして過去形でなくてはならないのか、この理解が不十分なために、仮定法全体がわからなくなってしまうようです。

## 助動詞の過去形が過去を表すことはほとんどない！

助動詞の過去形が、実際に過去の状態や動作を表すことはほとんどありません。

**過去形であっても、たいていは現在のことを表している**ことに着目しました。

I would say so. という文が、「私はそう言うつもりだった」という意味になることはありません。何らかの条件のもとで、「私はそう言う」という、現在のことを表しています。

つまり助動詞の過去形そのものに、何かを仮定する意味が含まれていることを最初に理解することが、仮定法全体を把握するための近道です。

I would say so. という例では、例えば「私が君だったら」とか、「私がその状況にいるとしたら」というような**隠れた仮定の意味**を感じることが大切です。

## 隠れた「もし」の意味を理解することからスタート !!

このDVDでは、if節に触れる前に、助動詞の過去形を用いた文について、**隠れた「もし」の意味を感じることから導入する方法**で仮定法の理解を促します。

仮定法には、ifを用いたもの以外にも様々な表現がありますが、基本的な仮定法の位置づけを理解させることを第一義とした授業展開にしました。

なお、**授業で使用したパワーポイントのファイル等の資料**が

ダウンロードで入手できますので、実際の授業すぐにご活用いただけます。



過去形は「もし」を含んでいるのかも

### wish

I wish I could spend one whole day with you.

「もし」はどうに隠れてる？

(もし)君と一緒に過ごせたらいいのになあ。

で、実際どうなの？ 事実とは違います！！



話が違わない？

1) If you are ready, we will begin.

2) We will begin if you are ready.

準備ができるなら始めるよ

できている可能性アリ

「もし」は過去形って言ってたよね??

準備ができるなら始めるのになあ

できている可能性ナシ

1) If you were ready, we would begin.

2) We would begin if you were ready.



## 特典資料

DVDをご購入いただくと—  
**授業で使える**

### パワーポイント(スライド31枚)

がダウンロードできます。



商品番号  
**E120-S**  
[全1巻] 8,000円+税(送料別)  
87分

授業解説 内田 浩樹 国際教養大学大学院  
英語教育実践領域教授  
協力: 英語教育・達人セミナー  
授業クラス: 札幌日本大学中学校・高等学校(高等学校2年生)

### はじめに

#### ■授業の概要と目的について

- 助動詞の現在形と過去形
- 過去形の助動詞を見たら「もし」を見つけよう
- could を用いた文の意味を考える
- wish の練習
- WHEN/IF を使った文のカタチ
- 仮定法では未来の話はしないことになってるけれど
- どうしても未来の仮定をしたいときは
- 過去のことを仮定したいときはどうしよう

### 授業の流れ

- 「仮定法」指導のポイントについて

### おわりに

#### ■まとめ

- ・過去形の助動詞には「もし」が隠れている／
- wish の文には「もし(過去形)」は必需品／
- If の文のカタチは when の文と同じ／過去のことを仮定するときは2つの印を使う